一般助成　子供の健やかな成長を願う事業（やすらぎ・いたわり）

「e-learningシステムと療育体験によるペアレントトレーニングプログラムの開発」事業

自閉症の早期療育を日本に根付かせ 保護者が主体の療育支援のためのシステムを構築

社会性やコミュニケーション能力に困難を生じたり、特定のものに強いこだわりを示すといった特徴のある自閉症。心の病気と思われがちだが、先天的な脳の機能障害と考えられている。NPO法人 ADDSは支援プログラムの提供と学生セラピストの育成を通じて、自閉症の子どもとその家庭の支援に取り組んでいる。

ADDSは、自閉症などの発達障害の子どもとその保護者を効果の実証された手法によってサポート

IQ20ポイント向上の効果を生み出す保護者トレーニングプログラム

自閉症など発達障害のある子どもには早期に適切な療育を開始することが効果的と言われている。しかし、専門家による療育を長期間受けようとすると多大な費用がかかるうえ、現状では支援の受け皿も十分に整備されていない。こうした問題の解決策としてADDSが取り組んでいるのが「保護者主体の療育」支援だ。共同代表の竹内弓乃さんは、「家庭こそよき療育の現場。保護者である親御さんが子どもの療育に関してしっかりとした方針を持ち、関わり方のスキルを身に付けていければ、毎日の生活の中でお子さんの学びの機会が大きく広がります」と話す。

ADDSでは2009年の設立時より、米国を中心に研究が進む「応用行動分析（ABA）」に基づき開発した「早期療育スタートアッププログラム」を実施。2～5歳の未就学児を対象に、子ども本人への療育と合わせて、父母に療育の仕方を指導する保護者トレーニングを行っている。その療育法は、臨床心理士らスタッフが子どもの発達具合を細かく把握し、発達段階に合わせて課題を設定しながらできることをほめて伸ばすというもの。5年間で約120家族が参加しており、非常に大きな成果を上げているという。

「米国の研究ではABAの療育を受けた幼児のIQが1年で平均20ポイント以上上昇することが実証されています。ADDSのプログラムでも同様の結果が出ていますが、日本ではあまり知られていないのが現状です」と竹内さん。

そこでこの有効な療育法をより多くの家庭へ届けるため、本年度新たに開発されたのが、親子で学ぶ療育プログラム「ぺあすく」である。

e-learningシステムを導入して療育支援の受け皿を増やす

「ぺあすく」開発の目的は、療育の質を保ちながら支援の受け皿を増やす仕組みを構築することにある。そこで子どもと保護者へのセラピストによる個別指導など従来のプログラムに新たにe-learningによる保護者トレーニングや、保護者同士の交流研修を加えて構成した。前後期合わせて1年間のプログラムとして2015年11月よりスタートしている。「e-learningの導入、療育課題のデータベース化など、今まで手仕事でやってきた部分をシステム化して、再現性を保証できる形にしたのが『ぺあすく』。ABA療育のエッセンスを低価格で全国に広げていくためのプログラムにしていきたい」という。

さらに、「ぺあすく」で導入されているe-learningプログラムはwebで配信し、全国どこからでも受講できるオンライン講座「ネットdeぺあすく」として展開していく予定だ。1回10～15分の全13講座で、ABAに基づく子どもへの関わり方を具体的に学んでいくことができる。AJOSCの助成は、主にこのシステム開発のために役立てられた。

「おかげさまで、家庭での早期療育を普及・啓発していくための魅力的なコンテンツを揃えることができました。子どもはみんな発達の可能性を持っていて、そのために家庭でできることはたくさんあります。ぜひ一歩を踏み出すきっかけにしてほしい」と、竹内さんは力を込める。

全国どこからでも受講できるオンライン講座「ネットdeぺあすく」

助成団体：特定非営利活動法人 ADDS（Advanced Developmental Disorders Support）　http://www.adds.or.jp

療育支援の幅を広げていく新たな一歩になりました

ともすればNPOを運営していくことに日々消耗してしまいがちになるなか、外部から力をいただくことは次の一手を打つための起爆剤になります。今回AJOSCの助成を申請するにあたり、中長期的な視点で活動を整理する機会にもなり、助成のおかげで広く療育支援を届けるためのシステム開発に着手できました。とても感謝しています。

NPO法人 ADDS
共同代表　竹内 弓乃さん